

～IBD 専門医による IBD に特化したクリニック～
SAPICL (Sapporo IBD Clinic)

院長の田中浩紀先生にお話をうかがいました (編集部)



市電「山鼻19条」下車、徒歩5分。院長自慢の水槽で魚たちがみなさんをお出迎えます

「IBD」とも「一生付き合える患者さん」を
全力のサポート

新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される2020年9月、当院は「炎症性腸疾患 (IBD) の診療に特化したクリニック」として札幌市内にオープンしました。開業当初からサーマルカメラ (非接触型の体温測定カメラ) を設置し、飛沫防止のパーティションを随所に設置するなど、徹底した感染対策を行っています。患者さんも通院を控えたり治療を中断することなく、しっかりと継続されています。ご自身に必要な治療をきちんと認識している様子がかがえす前向きに取り組んでいるのだと実感しました。

IBD の患者数は依然として増加傾向にあります。一方で、適切な治療を続けることで寛解 (症状が落ち着いている状態) を維持するケースも増えています。当院では経験豊富な医療スタッフがみなさんを全力でサポートし、一緒に QOL (生活の質) の向上を目指すべく、診療を行っています。

「IBD 診療に必要な医療機器を揃え、迅速に対応」



(左から) 田中浩紀院長、宮川麻希診療部長、那須野正尚副院長、長澤孝副院長 (臨床工学技士)、島崎洋副院長 (診療放射線技師)

現在、当院には潰瘍性大腸炎の患者さんが約480名、そして300名を超えるクローン病の患者さんがそれぞれ通院しています。IBD に必要な検査や、治療などに用いる医療機器は概ね揃っており、個々の患者さんに合った治療法をご提案しています。また、土曜日も通常通り診療を行っていますので、学業や仕事に支障が生じることなく治療を続けることができます。レミケー

下などの点滴治療や血球成分除去療法 (イムノビュア、GMA)、カプセル内視鏡検査など時間を要する治療や検査にも対応していますので、お気軽にご相談ください。

「IBD 治療における
タイムコントロールの重要性」

IBD は再燃と寛解を繰り返す病気です



血球成分除去療法 (イムノビュア、GMA) の専用スペース (左上)、エコー検査室 (上中央)、内視鏡検査室 (右上)、生物学的製剤 (レミケードなど) の点滴を行う専用チェア (下)

が、先ほどお伝えしたように適切な治療を続けることで寛解維持が可能になります。そのためには「タイムコントロール」が必要です。定期的な検査を行うことで疾患の活動性を評価し、今の治療を継続するのがあるいは別の治療を検討するのかが、一緒に考えましょう。タイムコントロール・ターゲット (患者さんと主治医が一緒に目標を定めて治療に取り組むこと) は、これまでもこれからも重要なテーマだと思っています。

当院では、できるだけ苦痛の少ない検査を心がけています。大腸内視鏡検査では炭酸ガス送り装置を使用することでお腹の張りを抑えたり鎮静剤を併用します。また、大腸・小腸ともにカプセル内視鏡検査も可能です。ほかにも、小腸造影検査や腹部超音波検査、バルーン内視鏡など、小腸の群像にも強力に取り組んでいます。

少しでも異変を感じたら
早めに受診しましょう

「口ナ柄による環境の変化で不調を感じている方はいませんか?」少しでも異変に気付いたら早めに受診することをお勧めします。タイミングを誤って症状が悪化してしまうと、本来なら軽い治療で済むはずが、強い治療を要する懸念があります。がまん

札幌 IBD クリニック

住所 & TEL 〒064-0919 札幌市中央区南19条
西8-1-18 山鼻ドクタータウン2F
011-213-0397
診療時間 月・火・木・金・土 9:30~12:30 / 14:30~17:00 (火・木・金は18:30まで)
休診日 水・日・祝日
URL <https://sapicl.com/>

を続けることで病状が進行してしまってもあるかもしれません。そのような場合は躊躇せずに受診しましょう。「IBD による悩みを忘れられる生活へ」。それが SAPICL の願いです。
<SAPICL>
当院の名称「札幌 IBD クリニック」にはみなさん愛称を SAPICL (サピクル) と名付けました。田中先生。